

## 日本のパンダの重要性

浅科中学校 三年 松田 大雅

皆さんはパンダがなぜ日本にいるのか知っていますか。

パンダが日本に来たのは、日中国交正常化を記念して、中国から贈られたのが始まりです。

その後、繁殖研究のために貸与されました。

日本は、パンダをペアで借りるのに年間約一億円払っているそうです。また、日本で生まれたパンダの赤ちゃんも所有権は中国にあるため、六千七百万円、死んでしまっても五千七百万円ほど払わなくてはなりません。

皆さんは、そんな大金を払つてまで日本は中国からパンダを借りていいべきだと思いますか。

僕は、パンダを借りていいべきだと思います。  
僕がそう思うには、動物園としての利点と日本としての利点の二つの理由があります。

一つ目は、「パンダがいる」とで動物園に集客ができるからです。

例えば、上野動物園ではシャンシャンを迎えたとき六年ぶりに四百万人を超える入場者数を記録し、一日で六十人以上の迷子ができるほどの盛況ぶりでした。

そして、集客できる」とによつて収入が莫大に上がるからです。

実際にシャンシャンを迎えたことで年間で、数億～数十億の経済効果がありました。

中国側に、年間約一億円払う」と「それだけの利益が期待できるのであれば、パンダを借りるメリットとしては充分ではないでしょうか。

また、パンダが動物園にいることでの動物園の認知度が上がり、パンダを見に来ようと遠方からも人が来て、さらに周囲の商業施設なども経済効果が期待できるからです。

二つ目の理由としては、パンダを中国から借りて「どう」とが、日本と中国との平和の証だからです。

最初に述べたように最初は日本と中国との国交回復を記念して、中国から贈られたものがパンダです。

現在、日本と中国の絶妙だったバランスが変化してきています。

その中で、「これからもパンダを借りていい」と日本としても中国と良い関係でいる一つの手段として、パンダを借り続けていくべきだと思します。

反対に、もしパンダがいなくなつてしまつたらどうでしようか。

まずは、動物園の収入が下がつてしまふと考えられます。

例としては、和歌山県白浜町のようにパンダで有名なところでは、年間に六十億円の収入減になつてしまふと計算されています。

また、パンダがいなくなるといふことは、日本と中国との関係を見直さなくてはいけません。

このように、動物園やその周辺の経済効果、日本と中国との平和的な関係の継続の二点から僕は「これからも日本は、中国からパンダを借りていいべきだと考えます。